

改めましてこんばんは。富山大学の池田と申します。

大学の教員がやってくると、どういった話をするんだろう？と構えられる方もいらっしゃると思います。一方で、大学の教員の話というのは眠気を誘うのにもいい感じにして、私もできる限りテンションを上げてしゃべっていきます。が、それでも寝る人は寝るんですけどね、なるべく寝ないような内容にして、かつ、今日実は 11 月の準備委員会の時にもワークをしていただきました。今回もワークをしていただきます。今回もワークをしていただいて、前回ワークをしたものを踏まえて、今回やったもので更に足場をつくっていくようなことをやっていこうと思っています。ですので、あらかじめ申し上げておきますと委員の皆様 10 名、市役所の方どなたか 2 名に入っていていただいて、3 名×4 という形でグループワークをしたいと思います。これからどれくらいの時間になるかなと思っているのですが、20 分ほどずっとスライドでお話をさせていただいて、残りの 30 分からできれば 40 分くらい、あまり長すぎない形にしますが、そこでまず各自でアイディアを出していただいたり、あるいはグループで話をさせていただいたりといった形を取りたいと思います。

平和都市宣言を創るにあたって一番大切にしていることのひとつがみんなで作るということです。偉い人が作るわけでもなく、誰かが作るわけでもなく、役所がつくるだけでなく、みんなで作るわけなので委員だけで作るだけでなく、もっといろんな人に来てもらって、あるいは入ってもらって、だからみんなで作ったら自分のモノになるんです。自分のモノになったら大事に思えるんです。誰かが作ったらどうでもいいと思うんですよ。どうせ偉い人が言って、偉いことを言うんですけど、大体そういうのは右から左です。そういうふうなこともありますので、みんなでつくってみんなのものにしようということ、今回私がお仕事をさせていただくにあたって、かなり強く意識をしながらやっていきたいと思っています。ですので、くどいようですが、大学の先生が来たからといってひるまないでください。普通にぶつけ合いをしながらやっていきたいと思っています。ただ、なんもないところでぶつけ合うのも仕方ないということもあるので、今日はこれからお話をまずさせていただいて、みなさんとちょっと考える時間を持ちたいなと思っています。

「平和力の喪失の時代に平和を創るということ・続」ということで、前回はこの続というのがなかったのですが、今回は続きだということにつけました。中身に入っていこうと思うのですが、もう少しだけ私のバックグラウンドを話させてください。なぜかという、いろんな人が色んなバックグラウンドをもってみえます。私が、なんでこういう大学で平和学をやるようになったということも、関連しないわけではないのかなと思います。ですのでまず、私ごとをぺらぺら話す形になりますがお許しいただければと思います。

生まれは 1976 年です。ですので団塊ジュニアというふうには呼ばれています。出身は福井県の小浜というところ。福井県の小浜というのは若狭湾のところにありまして、東を見ても西を見ても原発ばかりです。ですので、私の生まれ育ったところというのは原子力産業

が盛んです。そういうことで脱原発という話もあまり聞きません。私の友人でも、高校卒業して関西電力さんに就職しました。若狭湾の電力って大体関西の方に行きますので、関西電力系に就職される方が多いです。父は福井県の出身、母は沖縄県の人間です。母方の祖父は沖縄戦で死んでおります。42歳で巻き込まれ巻き込まれるっていうんでしょうかね徴兵されて戦って、6月20日、終戦の前日に死にました。父方の祖父は田舎の次男坊で、当時田舎の次男坊はお金がないということで兵隊入ってずっと軍人をやっておりました。海軍でたたき上げで軍人をしてきたということで、戦争が終わってから〇〇しました。これは私のライフヒストリーみたいな、それしゃべってどうするみたいなところですが、ただ、そういうふうな環境で私は育ってきました。

私は大学の法学部に進学しましたが、進路を決めたのは、先ほどベトナムというお話がありました。ベトナム難民というのをテレビ見まして、2つ、すごく小学生ながらガツンときた出来事の1つがベトナム難民です。もう1つはちょうど私が小学校2年生、エチオピアで凄い飢饉があったんですね。お腹だけ大きくなった子どもを見て、何だこれはというふうに思ったんです。何だこれは、どころじゃないですね。怖くて見てられないんですよ。チビッコ的に言うとトイレにも行けない。同じ子どもなのになんでやねん…という。あ、ちなみに関西弁です。インチキ関西弁です。福井県若狭地方あたりは京都文化になりますので、おいでやす・おこしやす・おおきにの世界です。そういうふうな形でなるべく滑舌よくしゃべろうと思いますが、そういうことでですね、それをきっかけにして、私は小学校から中学校になって難民というのを知ります。難民っていう人がいるのか。たくさんいる。どうしたらいい？でも、福井県の片田舎ですから、誰も教えてくれません。高校に上がってですね、生徒指導とか、或いは進路指導の先生とかにお話するとですね、法学部の国際法というのがあるよと。だから行ってみなさいっていう話になって法学部に進学しました。それから、就職をすることなく大学院に結局行くことにしました。

法学部で勉強してる間に難民に似た状態の人で、難民よりもひどい境遇にある人がいるということを知りました。国内避難民と言います。戦争とか内戦とかが起こってバーッと逃げて行って、自分の国の国境を超えて逃げたら難民になりますが、超えられない人っていうのもいます。超えている人は大体3500万人ぐらいです。超えられない人は7000万強くらいいます。現在、世界の中で難民と国内避難民を合わせただけで、大体1億人を超えます。そして1億人の人たちが逃れているという歴史は今までありません。そういうふうなことで、私は何かできないかと思い大学院に入って、初めは国連に行きたいと思っていました。なんですけれども、国連に行くよりももっと考えないといけないことがあるということで、結局のところは、研究者の道を目指しました。ただ研究者というのはなかなか食い扶持のないものでして、就職活動にいろいろ出しても落とされるんですね。落とされるということで日本の大学に行ってもなかなか採用してもらえないということになりまして、友人のお誘

いで私インドに行きました。今から 10 年ほど前です。ですから一番初めに私が持った学生はインド人です。20 人いるうちの半分はインド人。残りの半分は奨学金をもらってアフリカからやってくる人達です。そういうふうな中で、授業も何とか七転八倒みたいな形でやりました。いろんなことを知りました。

授業が終わって私は例えば国際関係とか、難民とか平和学の授業をします、するんですよ、なんですけれども聞いてた学生の 1 人がやってきて、シエラレオネの出身でした。シエラレオネっていうのは後でまたご覧ください、アフリカのこの辺り（アフリカ大陸西側）にあるところですよ。小さな国で内戦ばかりやっていたところですよ。それで私に言うてくるんですよ。「先生、僕の国な、昔から内戦ばかりやねん。どうしたらええと思う。」っていうふうに言うてくれるんですけど、もう答えられないですよ。答えられないんです。これが、何ていうんでしょうか、「平和」というのを、日本人が考えることも限界かもしれないというふうに思いました。それからご縁があって、インドでの仕事のあと富山大学でご縁をいただいで、現在富山大学の教育学部で社会の先生になりたい人の社会の先生をしています。ですので分野は公民ということになって現在ここに来てるという形であります。ちょっと長くなって、私の話長くなって申し訳ないと思うんですけど、とりあえずバックグラウンドをお話しさせていただきました。こういうふうなバックグラウンドを持っております。皆様方も皆様がたなりにいろいろなバックグラウンドがあると思います。NHKの人気番組にファミリーヒストリーってありますよね。あれと同じです。皆さんそうです。大体 3 代ぐらいさかのぼるとすごい話が出てきます。そういうふうなところというのを、もしかしたら時間ある時に一度振り返りになるといいと思います。そういうふうな延長で自分があるんだなというようなことにおそらく気づかれると思いますが、いい加減話を先に進めていきたいと思っております。

本日のねらいということで、前回からちょこっとだけ進みました。前回というふうに言われてももちろん初めてのご出席の方もいらっしゃると思います。前回何やったかという、平和について考えることに馴染む。っていうことがありました。次に、平和は作るものであるという考えに馴染む。ということがありました。3 つ目はどうやって？という話。なのでちょこっとしか進めていません。この国において平和を考えるっていうのは、なかなか挑戦的であります。なぜかっていうと、ずっと平和だからです。でも、ずっと平和だからっていうふうに言いますが、それはドンパチしている戦争がないという意味で、ずっと平和ではありませんけれども、そうじゃないところに視点を向けると、本当に平和だとは言えないことがあります。例えば貧困であるとか、例えばヘイトスピーチであるとか、例えばジェンダー上の差別であるとか。大体そういう不幸というのは出てきません。なぜかというとなんか隠すからです。幸福は出てきます。ロシアのトルストイという人物が幸せっていうのは大体見えるもので、不幸というのは見えないもの。大体いろんな理由があるが、でも見せないという

ようなことを言ったんですね。不幸は私達見せたくありません。だから見せません、だからわからないということになります。そういうふうな平和の逆というふうに言ったらいいかもしれません。不幸が出てこないからわからない中で、オモテ面というふうに言うところちょっと言い過ぎかもしれません。とりあえず 80 年近く戦争してきませんでした。そういうふうな中で、平和について考えるということは、もうそれ自体が大きな挑戦です。だからこそ宣言を作るにあたっては、それがただの軽い文章にならないということがすごく大事なことだよというふうに思います。だからこそ、私たちは平和について今考えるということをしたと思います。

平和について考えることは壮大だというふうに言う人もたくさんいらっしゃいます。ですけれども、平和だからこそ平和が考えられます。なぜかというとなぜか戦争の真ん中で平和なんだろうって考えられませんか。戦争の真ん中で考えるのは、私はどうしたら明日行って生きていけるだろうと思うんですよ。どうやったら逃げたらいいかなんかというところなんですよ。そういうふうになると、平和について考えられるのは特権です。それぐらい暇と、或いは平和があるからできます。だから私たち平和について考えるというのは、1 つ特権にあって、だからこそ、そういうふうな、いわばゆとりがある状態で平和について考えるということは、普段そんなことなんか 1 ミリも考えられない人に対して、果たさないとけない責任というふうに言ってもいいかもしれません。だからこそ、平和について考えることには、じわじわ馴染んでいく必要があるのかなというふうに思います。

ただ偉そうなことを言ってもですね、じゃあどうするのって話です。どうするのを考えてつづですね、準備委員会のところで出してきた話かな、まずはここですね、入口としてちょっとこれを皆さんに聞いてみようと思います。「あなたが生きている間に世界は終わると思いますか？」です。手を挙げてください。生きている間に世界が終わると思う人？

→挙手なし

おりませんよね、普通は。いや、終わるに違いないとかいうふうに思うとなかなかいらっしゃらないと思います。終わらないだろうというふうに思う人？

→挙手多数

ですよ。なぜこの質問をしましたかといいますと、毎年 1 月から 2 月にかけて、世界的にちょっとイベントがあるんですね。それは何かといいますとアメリカを中心にして、原子物理学をやっている先生たちが集まって、世界の終わりまでどれぐらいかって言う、皆さんお聞きになったことあるかもしれません。「世界終末時計」というふうに呼ばれています。世界の終わりを夜中の 12 時というふうにしたときに、現時点ではその夜中の 12 時のどれぐらい前なのかというのを毎年発表するっていうイベントがありまして、この間今年の分が発表されました。どれぐらい前だったかって知ってるよっていう方いらっしゃいますか？どれぐらい前だと思います？

A さん→想像がつかない B さん→40 分前くらい

C さん→5 分前くらい D さん→数秒前

今年の結果でございます。世界の終わりまで 90 秒前です。これ 1946 年からスタートして
るんです。かつてはずっと分でやってたんですが、分ではどうにもなくなりましたので、秒
になったんです。ですから実は数秒というときさすがに近すぎるかもしれないんですけども、
当たらずとも遠からずというふうに、言ってもいいかもしれません。英語のところではです
ね、A moment of historic danger と書いてあります。もう歴史上かつてないぐらいの危険が
迫っていると、これが現在の認識です。ですけれども私たちはそんなことは多分考えないん
ですよ。だって私達平和ですもんね。これは例えば 1 つの糸口でありますだからどうしろと
いう訳でなく、そんなのあるんだなと思っていただければなというふうに思います。

今日の資料お配りさせていただいておりますけれども、Z の形で読んでいただければ、い
うふうに思います。そういうことでですね、これを糸口にしてどうするかということで、前
回の準備委員会ときにはこういうふうな 3 つの間というのを挙げました。特に答えを出
す必要はないんですけども、私たちの姿勢として大事になるのかなというふうなことを
想像しながら書きました。

1 つ目の「平和とは何か。」という話です。中学生の皆さんの作文がありました。平和
って何だろう。やっぱり一生懸命考えるんですね。平和って何だ、特別なことあんまり言
ってないんですよ。長崎に行ったので過去の話はしますけれども、あったかい布団で寝られ
ることあります。世界にあったかい布団で寝られないの方が多分多いです。そういうふう
なことなんかを考えると、平和とは何かというところがじわじわ出てくるかなと思います。

次です。2 つ目、なぜ今平和を叫ぶのか。今日の資料にもありました、様々な自治体が平
和宣言という平和叫んでますよ。どうして今なのか、今であることの意味ってなんなのか。
難しいかもしれません。ですけれども今すぐ答え出せっていうわけではないんです。でも、
ちょっと考えてみてください。

3 つ目です。言え方がいいのか？よくないです、ずばり。叫ぶのは大事ですよ。
ただですけども叫べば良いのか、そこの先です。前回はその先のことについてお話をしま
せんでした。なので、叫んだ後どうするという話もしていきたいと思います。

そこでです。今日お配りくださった資料③を私もいろいろちょっと見せていただきまし
て、この資料 3 をクロスさせながら話していきたいと思います。まず一番初め出してきた
93.2 というものです。この 93.2 というのは何かといいますと、現在、日本にある自治体の
数すべて合わせると 1,788 です。その中の 93.2%が非核都市宣言をしています。めっちゃめ
ちゃ多くのところがやってるんです。93.2%の自治体が非核だ、平和だっていうことで、す
でに宣言済みです。それでどうなった？という話なんですね。もちろん宣言をしたところで世
界が変わったら苦労はありません。苦労もないんですけども、一方で私たちは気持ちを込

めて 1 つ 1 つの町で宣言を作ってきているはずなんです。そういうふうな歴史というのがあって 93.2 という数が多分出てきてるとは思うんですけど。一方で私たちは平和が大事だ！宣言するぞ！っていうふうに言うておきながら、他方で、実際の平和に目を向けたときには、どうしてもそこにギャップがある。繰り返しになりますが、宣言で人は多分救えないと思います。でも、宣言で平和を救おうと思うのであったら、宣言するだけでは駄目です。

ということになるので、3 つ目になるんですけども真ん中のところちょっと挟みました。平和宣言を作った時代っていうのがあるんですね、今日お配りいただいたもの（資料③）というのは、すごくよくできてまして、最近のものから昔のものまでいろいろあるんですね。ですけども私がパッと見ていたところで結構平和宣言で一時期盛り上がった時期があります。それがいつかというと 1985 年ぐらいです。今から 40 年近く前、戦後 40 年だから、いうことで、いろんな自治体が昭和 60 年 61 年とかそれぐらいにやるんですね。そのウェーブというのが過ぎて、現代になっています。現代というよりも、過去 3 年・4 年切り取っただけでも、その以前の世界とは大分違ってきてます。以前もお話しましたがけれども、少なくともこの 4 年間の中でですね、私やあなたの安全を守ってくれたのは、自衛隊かもしれませんが核ミサイルではないはずですよ。軍隊かもしれませんが、でも、それ以上に毎日私やあなたの安全を守ってくれたのはマスクです。そういう意味で考えると、もうすでに過去 4 年だけ切りとっても、状況が大分違ってきています。

その一方で、例えば国際関係論の授業では、国家間同士の戦争って大分なくなったよって話すんですよ。そのアンチテーゼが出てきました。ロシアとウクライナが戦争をしていますよね。或いはそうじゃない形ということで、今中東では、次第次第に戦火が広がってきています。アメリカも先週から今週にかけて空爆を始めました。シリアとイラクっていうところで空爆をしています、当然シリアの政府に空爆をしたわけでも、イラクの政府に空爆をしたわけでもありません。そんなことやったら全面戦争です。ですからアメリカはどこに攻撃したかという、プライベートな集団ですよ。武器を持っている荒くれものたち、武装集団に直接攻撃するというようなことをやりました。かつての戦争は日本対アメリカというような形で、国と国とでやっていたんですが、そういうふうな形じゃない戦争、戦争の形もなし崩し的に変わってきています。この辺りの話というのは知識で後から幾らでも補えますので切ります。

つまりですね、多くの自治体が平和宣言を作った時代と現代っていうのは、大分変わってきてるかもしれません。だからこそ、私たちのこの時代に合った、平和宣言っていうものが必要かもしれません。それでじゃあどうするかということで、前回のお話からしばらく考えました。どういうふうにしたら、この飛騨市で作る宣言っていうのが光るのかなっていうところを考えたとき、ですね、昔からずっと考えてたのは、言っただけじゃ無理・駄目って

うところなんです。

そこですね、いろいろちょっと考えまして、これ、皆さんにお投げしますけれども、ガチャガチャ変えていただきたいなっていうふうに思います。とりあえず宣言作るっていうところなんで、作るっていうのが一番始めに持ってきました。

「つくる」、「使う」、「つかむ」というこの3つで、とりあえずぐるぐる回してみようかなと考えました。つくるだけではなくて、作ったものは使います、その次、使ったからこそわかるものがあるって、世界をつかむということにつながります。そしてつかんだからこそ、新しい何かに作り替えるというところが出てくるかもしれません。ですから、つくって、使って、つかんで、つくって、使って、つかむ…。何を言ってるかだんだんわからなくなってますけど、そういうふうな形でグルグルまわしていくというようなイメージというのを、今ちょっと考えています。ただ、繰り返しになりますがこれは私の妄想です。ですので、それはちゃんと皆さんに差し上げてですね、どうでしょうかっていうので、揉んでいただくというふうにも思っています。

ただですね、作るというところでも、何か、何もないっていうことになるんですけど、作りようがありません。作りようがないので、「つくる」の前段階には、ある程度ちょっと知っとかんとあかんということで、順番をちょっと1つずらしまして、「つかむ」というところから見ていきたいと思います。

もし「つかむ」というところからやるとする中で、今日、この①②③について、皆さんにご意見を伺えればというふうに思っています。つかむということで、4つ挙げましたがそのうちの3つは、ご質問をさせていただきました。

1つ目は、「時代を掴む」ということです。今、私たちが生きてる時代ってどんな時代なのか。客観的な正解でなくて結構です。ご自身が考えてる時代としてこんな時代だなというような感覚として書いていただきたいと思います。それがあなたや私にとっての現在世界を見ている感覚の基盤になるからです。なので1番目「時代をつかむ」、どんな時代かというところを基盤にして、次に問題をつかんでいきたいと思います。

その問題をつかむというところで何が出てくるかというのと、私たちは何に苦しんでいるかということです。ここでは「私たち」というふうにししました。「私たち」の範囲は変幻自在にさせていただいて結構です。ですから私は何も苦しんでるかで考えていただいても結構です。或いはそれをずっと延長して、エチオピアの子どもは何に苦しんでるかという形で話をさせていただいても結構です。私たちは何に苦しんでいるか。というのを明らかにすることで、ひいては平和を脅かすものがなんなのかという在処が分かるかもしれません。

そして3つ目です。ニーズというふうに書きましたけれども、私たちは何を求めているのか。今のロジックでそのままいきますと、私たちは何を求めているかというのでも伸ばしていくと、私たちの求める平和の中身が或いは出てくるかもしれません。

ということで、小難しい話をあまりするつもりはありません。直感ぐらいでちょうどいいかなというふうに思います。そういうふうな中で、今はどんな時代、私たちは何に苦しんでいるか、私たちは何を求めているかというこの 3 つの視点というのを今日お出しさせていただきたいと思います。そういう入口が適切かどうかというところも含めて、またいろいろ議論していただければと思うんですけれども、ただ、①②③というのを考えるにあたってですね、つかみ方もいろいろあります。

それで、これは別に大学の先生がしゃべるといういろんなところに言われる 3 つの目の話ですね。鳥の目、アリの目、魚の目の 3 つです。鳥の目は、鳥になったような形で世界を見ます。鳥になると、広い世界が見えますね。俯瞰的にとらえることができます。アリの目ということになるとアリの目ってこのあたりから見るわけでありまして。ちっちゃいところから見ていくことができます。そして魚の目でありまして、魚ということになると、流れの中にザブンと入るわけですね。ザブンと入って、泳ぐわけでありまして。泳いで初めてわかることってあるかもしれないですね。スムーズかもしれませんし、潮目かもしれませんし、逆流かもしれません、ということです。言うのは簡単なんです。大学の先生はこういうところで卑怯で、言うのは簡単なので言いたい放題ですね。ですけれども、この鳥の目、アリの目、魚の目はどれか 1 つでいいと思います。或いは 1 つ手に入れたら 2 つでもいいと思いますし、欲張っても全然いいと思います。なんですけど、こういうふうな形ですね、見方を変えてみるというのをやっていただくと、別に今日じゃない、今日じゃなくてもいいんですよ。例えばああそっか、アリの目かとふっと思ったら、3 分ぐらい考えてみる。そういうふうなのでも構いません。

どうしても答えが見つからないっていう時に、これ私時々授業で言ってるんですけど、あたしの授業がつまらないと思った人はですね、スマートフォンを出してきて YouTube を開けてください。YouTube でインターナショナルスペースステーションっていうふうに入れていって検索してください。そうするとですね、現在地球の上を飛んでいる宇宙ステーションの生中継が見られます。地球まるっと見れるんですよ。授業つまらなかったそれに見ててというような話をするんです。でもとっても鳥の目です。例えばそういう部分のところから、何かぴかっと光るかもしれません。そこがポイントです。なので、①②③だけじゃないかもしれません。ですけれども、①②③というところに引きつけて考えると、何かの入口になるかもしれないなというふうに思います。

今回、今日のメインは「つかむ」というところですので、そのあとのところについてはもうちょっと簡単にお話しようかなと思います。
次、「つくる」ということです。作るということで、これから私たちはみんなで作っていくということになります。先ほど言いましたけれども、やはり大事になってくるのは何かとい

うと、宣言を「みんなで作る」ということであります。みんなで作るっていうふうに言いますが、私もおそらく大切になってくるだろうというふうに思います。なぜかという、他人の平和はわかりません。でも、自分にとっての平和わかるはずなんです。自分にとって何がいいのか、何が駄目なのかなっていうところを考える「私の平和」というところからスタートすると、私の平和が何なのかは大体確実な答えとして出てきます。

私は前期に平和学入門、1年生対象の授業をやってるんですけども、それで私の平和は平和、あなたの平和も平和よっていうような話をしてですね、コメントくださいって寄せられるのがですね、大体恋愛相談ですね。「片思いをしています、どうしましょう。私の心はざわざわしています。」あと「振られました。」いろいろあるんですよ。確かにあなたの心の平和も平和やねという話です。でも、そういうところから多分スタートしていいと思うんですよ。だってそれは人の繋がりですからね。そして、後でもお話しますけれども、人の繋がりが実は平和において人が生きるために大事だよという話を、前回の準備委員会のワークショップで出しました。だから繋がるんですよ。そういうふうなところで、誰のために作るかっていうので私の平和とあとちょっと延長して私たちの平和っていうのを考えてもいいのかなというふうに思います。

次は賞味期限を意識するっていうふうに書きました。

1回作って、ずっとそれがそのまま行くかという、そういうふうには多分なりません。社会が変わって私も変わります、あなたも変わります。ということになると、将来、作り変えるということも恐れずやっていく必要があるかなと思います。

そんなことやってるところが他にあるんかい！っていうところなんです、やり始めてるところがあります。東京に日野市という町がありまして、日野市は40年前に平和都市宣言を作りました。40年たったので見てみようかということ、今、見直してるんですよ。で、当然40年前と比べてですね、SDGsなんて何もなかったわけですよ。そういうようなところで、もうちょっと考え直してみるみたいなことをやってる町もあります。ですから、今作ってすぐ変えなくていいですよ。ですけども、将来的に作り変えるというのは恐れないで、もう時代時代にあって、足したり引いたりしておそらくいいなと思います。ただし、この2番目というのは、3番目が前提です。

どうしても譲れないものは何ですか。平和を考えるにあたって、その平和そのものを掘り崩すようなことについて出してしまうと元も子もなくなるかもしれません。ちょっと違う話で申し上げますと、民主主義が大事だという話があります。民主主義というのは、独裁ではありません。みんなが決めるという話になります。みんなが決めることがとっても大事だという主張が、150年前ずっと続きました。そしてそのプロセスの通りに選挙をやり、人気のある政党が勝ち不人気の政党は負けというのを繰り返して選挙に選挙を重ね、多数党が

リーダーを出して、そのリーダーが選挙で選ばれて、一番上までたどり着いたのがナチスです。ナチスはいかにも悪そうなアドルフヒトラーがいかに悪そうな独裁者としてやってきたわけではありません。あれは完璧に民主主義の手続きでもって総統まで行きました。なんですね、全部から一番初めにナチス党って出てきたときには弱小政党で全国区の選挙 3 回ぐらいぼろ負けしています。なんですけれども、例えば仕事をあげますとか、そういうふうな形でですね、ものすごい得票するんですね。得票して最大多数の党のリーダーが首相に選ばれる首相だったんです。だからヒトラーが総統になる前に首相になってます。つまりですね、何が言いたかったかということ、民主主義っていうのを変えますよというふうに言って、民主主義ってやり方自身が、やり方によっては、民主主義そのものを掘り崩すことがあるんです。戦後のドイツはこれを勉強しました。なので、戦後のドイツはなにをしたかということ、民主主義を掘り崩すような民主的手続きは認めない、ということを入れたんですよね。平和ももしかしたら同じことがいえるかもしれません。何がそれに当たるかわかりません。ただ、何がそれに当たるかわからないんですけれども、とりあえず入口として大事になってくるのは「どうしても譲れない」だと思います。それは人の命かもしれません。或いは自由かもしれません。人間の尊厳、かもしれません。そんな難しい言葉はわからないということであつたら、今日この会議が終わってですね池田先生結局何言ってたのかな、おなかすいたなというふうに思ってますね、ご飯を食べられる。これも大事ですよ。ご飯が誰を食べたら大体当然のようにお風呂がついてきます。お風呂の後に寝れるはずであります。明日の朝は特に揺れることもなく、おそらく起きられるはずであります。そういうふうなのが、もしかしたら「どうしても譲れない」になるかもしれません。

最後です。「使う」ということで、市役所の皆様がいる前でこんなこと言うとケンカを売っているようでもありますけれども、宣言をつくって行政側だけに使わせるのはもったいないです。けれども、実際のところ、様々な平和都市宣言を使っているのほとんどは行政です。それでもっていろいろな、例えばイベントをやったり、コンクールをやったり、あれをやったり、これをやったりね、市役所は大車輪のように、或いは町役場は大車輪のように動くんですよ。ですけれども、そういうふうなやつばかりではないんですよ。なぜかということ、市役所の、今日来てくださってる皆さんだけが社会の主人公とは限りません。皆さんも私もそう。だから社会の中で動くっていうことの中で主権者と偉そうに言いましたけれども、つまり社会で普通に生きてる私たちが社会を作ってるので、だから私たちが使えるようにしたらええんちゃうのというようなところが一番であります。ですから、もちろん市役所さんが何かを作って、町役場さんが何かを作ってそれをやるというのは大いに結構ですが、多分我々サイドでもっとやらなきゃというところもおそらく出てきます。

例えばうちの大学で、私の学生で何やってるかということですね、コンタクトレンズの空き容器ってありますよね。あれ、リサイクルできるんです。そのことを知って、リサイクルボ

ックスを作ったんですね。しばらくするとドバーッとたまってくる。なんていったって富山大学キャンパスには 6,000 人ぐらいいますから、6,000 人の何人がコンタクトレンズ使ってるかわかりませんが、やるとしばらくするとたまりますね。それをくるくると結んでですね、コンタクトレンズ会社に送るとですね、ペットボトルと同じような形でリサイクルしてくれるわけなんですね。

ですから、そんなに何か、大げさなことをやる必要はないんです。ただ、そういうちっちゃいことというのをたくさんやっていくと、それがそのまま町に根付きます。町に根づいて無理なく無駄なくずっとやっていくと、多分それは将来的には「文化」になります。飛騨市らしいよねっていうふうに言ってもらえたら多分勝ちだと思います。そして多分、やったからこそ見えるものというのが出てくるかもしれません。そうすると、つかんで作って、使った先にまたつかむが出てきます。新しい問題が出てきたということです。ということでクルッと 1 回転するということになります。そしてこのくるっと 1 回転したものを、くるくるまわしていくということをするならば、おそらく平和都市宣言はホームページの上に置かれただけのものではなく、それがそのまま町の一部になって、町のダイナミズムになるんじゃないかなっていうふうに考えております。

というところでしゃべりすぎました。ここからはワークをやります。

前回準備委員会のときにはこの 2 つを実は考えていただきました（人間にとって必要なものは何か、人間の必要を奪うものは何か）。ですから、今回ご参加いただきました公募委員の 4 名、お暇だったらちょっとこれ考えてみてください。すごく哲学的な問い方とかでこんなんやっています。人間っていうのがよくわからなかったらあなたにさせていただいたらいんです。あなたにとって必要なものは何か、或いはあなたの必要なものは何かっていうふうに考えていただいたらと思います。いろいろあるかと思いますが、このあたりは想像で、この後のお話にも関係するんですけども、ポイントになるのは 2 つの力を多分使うということです。

1 つ目は妄想力です。あれこれもう少しという感じで妄想することそうですね。2 つ目は感情です。うれしかったり、悲しかったり、悔しかったり怒ったりする、そういうふうな感情。その 2 つというのをかけ合わせていくと、これは要るだろうとか、これは駄目だとかいうのが出てくるはずですよ。そこが出発点です。あとはそれを順番に並べていったらそれがロジックになります。そういうふうな形でやっていったらいいのかなというふうには思っております。

前回どんなことをやったかというんですね、まず皆さんに、先ほどの問いを考えていただいて、それをグループで集めていただいて最後こういうふうな形で集めてですね、まとめてこの真ん中のところにマルありますよね。これが 11 月の準備委員会のときに、その参加者の皆さんで出した結論でした。

人間にとって大事なものが何であって、或いはそれを奪うものが何であったか。大事なものとしては、どのグループも共通して出してきたのは「衣食住」というのと、「周りとの関わり」ということであります。これが 11 月の時点で平和を考えて、皆さんが出してくださったものです。

一方で、それを奪うものは何ですかというふうに言われたときに出してきたのが、「災害」と「格差と貧困」、「拘束や排除」。という言葉でした。そして、こういうふうな言葉を捕まえただいて、再び今日お配りした資料③に戻ると、資料③の宣言集にはそんな言葉がほとんど出てきません。非核というのは確かに日本が得た経験として非常に大事ではあり、いずれは出てくるだろうと思いますけれども、資料③に載っている経験や知識と、11 月の時に出てきた経験や知識というところの間にはどうやら距離があると思います。どちらがいいかというふうに問うつもりもありません。ですけれども、多分ここで作られる平和都市宣言は、ここの暮らしの中で出てくる都市宣言だと思えます。ということになると、私たちが普段から何を思い、感じ妄想し、或いは、喜んだり悲しんだりする中で出てくることになるのか、その部分がポイントになるのかなというふうに感じました。

ということでですね、何やかんやで 20 時 5 分回ってしまいましたけれども、今日この後のワークというのは実は 2 段構えにしております。

まず初めです。5 分差し上げます。5 分差し上げますので、このホチキスどめの資料と別のところで、別に 1 枚、皆さんにお配りしているかと思いますが、ここのところに、思いつくままで結構ですので、問いに対して書いていってください。わからなければわからないままで結構です。別にそれを採点して 100 点だと 0 点なんて言いません。ですけれども、まず、自分の経験や自分の感覚というところで書いていただければと思います。

それが終わったら、グループで集まって意見をシェアして、だんだんとこの全体の知識というでしょうかね。見方ということ固めていこうと思います。まずその一歩ということでですね、5 分時間差し上げますので、なんなら隣近所でお話していただいて構いません。黙ってやっていただかなくても大丈夫です。私インドで教員をやっていた時にですね、こういった時間を設けると大体みんな黙らないんですよ。前を向いたり後ろを向いたりしてですね全然関係ない「昼ご飯どうする？」というところからしゃべっていました。でも、それぐらいで結構です。そういうふうなところで話をしていただいて、もちろん 1 人で考えていただいても結構です、ご自由になさってください。これから 5 分差し上げますよろしくお願ひします。

(ワーク後)

ちなみに私、何を書いたかといいますと…。私は今どんな時代か、パッと思い浮かぶのが、怖い時代、夢のない時代っていうのを 2 つ出しました。

それで、2 番が私にとって一番難しかったです。何に苦しんでいるのかなっていう、いろいろ考えたら心が満たされていないっていうふうに思いました。いろいろ私も悩んでるのかもしれない。

あと 3 つ目ですね、私たちは何を求めているかというので真っ先に出てきたのは自由でした。自由とご飯と水という。

皆さんはどういうふうにお考えになったかということでこれからです。くどいようですけども答えはないです。答えはないんですけどこうやって出していくっていうところがすごく大事なので…

(グループ分け)

(ワーク終了後)

2 つお願いがあります。

1 つ目は何かといいますと、スマートフォンお持ちの方はワークシートの写真を撮っていただけますか。これが今日の内容でありまして次に、皆様とお会いするのが 5 月になります。なので、大体忘れます。そうかと、こんなことやっていたなということでですね、写真を撮っていただきたいと思います。ていただきたいと思います私ももちろんおります。

あともう 1 つは、今日作ってくださったワークシートを次回持ってきていただきたいんです。なぜかといいますと、これはおそらくまた、市役所の方からですねお話があるかもしれないんですけども、スケジュールっていうのが大体流れ始めていまして、次ぐらいからですねもう 3 月 1 日ぐらいから他の人たちに意見聞いてみて、どんなのか出してみましようっていうのがあります。なので、そういうふうな人達の意見とつき合わせるために、お持ちいただきたいと思います。もしできるのであったら 1 年仕事になりますので、それこそ小学校みたいですけども、穴あけパンチで穴あけていただいてですね、ファイルに留めておいていただいて 1 年分ぐらい貯まると結構なものになると思います。そういうふうな形でですね、次回持ってきていただければなというふうに思います。

これが終わりではありません。これが第一歩、或いは 2 歩、という形です。ここからいろんな人の意見がさらに来ます。今日のこのアクティビティの中で皆さんが言いたかったことを書いた。或いは、他の方から伺ってそうかって思った意見もいろいろあったと思うんですね。こういうのをこれからもコネコネしていくというプロセスになろうかと思います。

そろそろ終わりにしようと思うんですけど、私これ今日お話していですねそうか！と

気づいたことがあるそれは何かというと、これ（飛騨市市民憲章）なんですよね。私は何の前でしゃべってたんやろみたいな話だったんですけど、真似するというわけではないんです。ただ、飛騨市にはこういうふうな市民憲章があります。これの真似をするわけではないけれども、この市民憲章も多分いろんなプロセスを経て作られたものだと思います。この市民憲章と、今日皆さんと一緒に見ていただいた他の自治体の平和都市宣言との間には大きな違いが 1 つあります。それは何かと言いますと、後でまた確かめていただければと思うんですけども、平和都市宣言は全部「宣言します」で終わっています。でも市民憲章はそうじゃないですよ。「作ります」なんです。do なんです。しかもそれを、どんなものを作るかっていうことまで書いてます。もちろん、それぞれにできるような形でっていう表現になってますから、こんなまちをつくります、あんな街を作ります、というような形にはなってると思います。ですけども、今までの平和都市宣言を「宣言します」で終わりました。もちろん宣言の歴史っていうのもあるのでアメリカの独立宣言とかは We declare みたいなのをやるんですよ。ですけども、多分言うだけではなくって、言う先というところも、これから考えていく必要があるかもしれません。

ということで、8時半ぐらいに終わりがかったんですけども、私の授業と同じ大体オーバーしてしましまして、とりあえず私の話は以上で終わりにしたいと思います。これからどうぞよろしくお願ひしますいろいろお話しさせてください。ありがとうございました。